

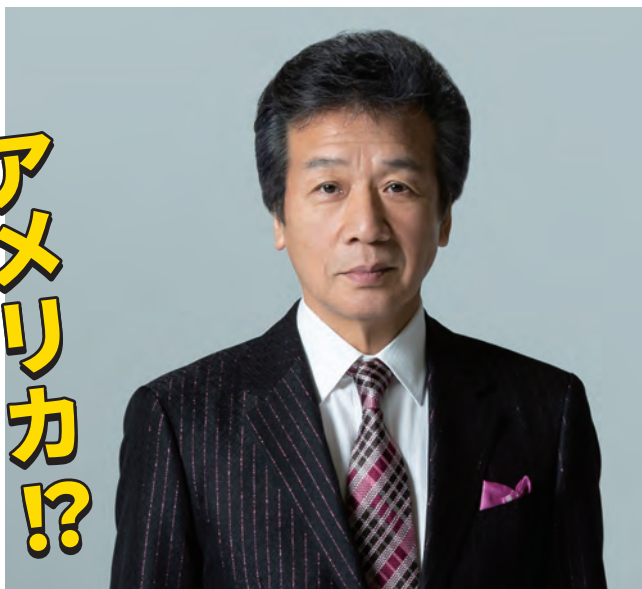
| 歌手 |

前川 清

Kiyoshi Maekawa

佐世保の文化

アメリカ!?



文化のチカラ

— させぼ文化情報紙 —

創刊号

2023.07

佐世保の〈文化〉の昔・今・未来、ヒト・モノ・コト。様々な分野から、それぞれの視点で捉える佐世保の〈文化〉をはじめ、「ここだけの話」など、「文化のチカラ」ならではの話ををご紹介します。

01 前川さんにとって佐世保の〈文化〉と言えば？

昔から、佐世保にはアメリカの基地があるので、街には外国人が多かったです。父の仕事の関係で、小学生の頃から、基地の中に入出入りすることができた私は、野球のリトルリーグに所属して、

外国人の子どもたちのチームと試合をしたり、アメリカの文化に触れる機会が多くありました。自動販売機で、紙コップに注がれるコーラを初めて飲んだのもここです。黒い泡が立った得体のしれない飲み物にショックを受けました。当時、日本になかったシャワーも、洋式トイレも子供ながらにビックリしましたね。



リトルリーグ時代の前川 清さん!!

そんなカルチャーショックを幼少期に体験した前川さんにとっての佐世保の文化は、まさにアメリカ!?. 自身の音楽のルーツも兵舎から流れていたジャズと話す前川さんは、今では当たり前のようにアメリカ文化が融合する佐世保の文化の先駆けを知る一人であると言える。

02 前川 清のここだけの話

75歳になった今年から、運転免許の更新には認知検査と運転の講習を受けないといけないので、先日、それを受けてきました。一緒に受講した同年代の人たちの中にいたら、一瞬で自分が老け込んだ気分になりました。自分の歳を実感する瞬間でした。

03 佐世保の皆さんへ

佐世保には古くからの知り合いがいて、みんな歳を取り体の機能も衰えてきましたが、いつも佐世保に行くとき集まって、食事や酒を飲むのが楽しみ。耳が遠くなる人も、聞こえないのに笑っていたり、気遣いなくしゃべって笑って、その時間がとても楽しくて、暇なときは仲間と一緒に、佐世保に行きます。



前川 清

Profile

1969年に、内山田洋とクール・ファイブのヴォーカルとして『長崎は今日も雨だった』でデビュー。その年の日本レコード大賞新人賞を受賞し、NHK紅白歌合戦にも初出場を果たす。その後リリースした『そして、神戸』・『中の島ブルース』・『東京砂漠』などが大ヒット。1987年よりソロ活動を開始し、『花の時・愛の時』・『男と女の破片』のヒットを飛ばす。KBCのレギュラー番組「前川清の笑顔まんてんタビ好き」では常に好視聴率をたたき出す人気番組として現在放送中。2023年1月1日に、さだまさしプロデュースによる新曲『昭和から』をリリース。同年2月5日にデビュー55周年を迎えている。

